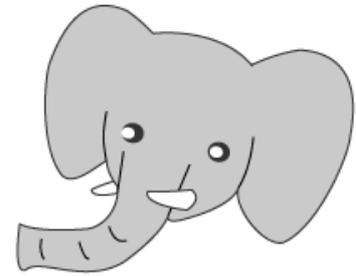


## ぞうさんの歌

白やぎさんと黒やぎさんが出てくる「やぎのゆうびんやさん」、友だち100人できるかな♪の「1年生になったら」、ポケットをたたくとビスケットがふえる魔法のポケットを歌った「ふしぎなポケット」、そして誰もが知っている「ぞうさん」の作詞をしたのが、「まど・みちお」さんです。

作詞家まど・みちおさんは、何年か前に104歳で亡くなりました。まどさんは、小学校では歌や詩集でよく名前が出てくる方です。このぞうさんの歌は昭和23年に作られた歌だそうです。昭和23年といえば当時は終戦から3年後であり、まどさんは、戦前から戦後にかけて中国で暮らし、日本人と中国人の立場が大きく変わり、つらい経験をされたと聞いています。



作詞 まど・みちお

1 ぞうさん

ぞうさん

おはなが ながいのね

そうよ

かあさんも ながいのよ

2 ぞうさん

ぞうさん

だあれが すきな

あのね

かあさんが すきなよ

「ぞうさん、ぞうさんおはなが長いのね♪」とほのほのと歌われているこの歌詞は、実は、こぞうに向かって、森の動物のキリンやサルや他の誰かが、ぞうの子どもに言っている言葉なのです。

「おはなが長いのね」は「おまえの鼻は、自分たちの鼻と違って、長くて変だ」と悪口を言っているのです。でもこぞうは、「お前だって、首が長いし、おしりだって赤いじゃないか」とは言い返しません。

まどさんは、生前のインタビューで次のように話されています。

「ぞうの子は、鼻が長いねと悪口を言われた時に、しょげたり腹を立てたりする代わりに、一番好きな母さんも長いよと、誇りを持って答えた。それは、ぞうがぞう

として生かされていることが、すばらしいと思っているからです。だからこの歌は、ぞうに生まれてうれしいぞうの歌、と思われたがっているでしょう。目の色が違うから、肌の色が違うから、すばらしい。違うから、仲良くしようということです。」

鳥取県では、毎年7月10日から8月9日の期間中、部落解放月間として部落問題をはじめ様々な人権問題の講演会や研修会が行なわれます。羽合小学校でも、7月10日から22日まで「みんななかま」というワッペンを付け、この活動に参加します。

先日の全校朝会で、友だちや周りの人を大切にする人になってほしいということをお話しました。友だちのいやがることを言ったり、叩いたりけったり、仲間はずしをする人はいないのか、それを見て見ぬふりをしている人、自分には関係ないと無関心な人はいないのか。皆さんには周りの人を大切にする人になってほしいという内容です。私たちの周りに人権に関する問題はないのかどうか、ぞうさんに悪口を言っているキリンやサルの気持ちが自分の中にあるかどうか振り返ってみてほしいと思います。